

本市の全国学力・学習状況調査結果概要（報告）

平成24年1月17日
由利本荘市教育委員会

本調査は、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析し、その成果を検証して学習指導の改善を図ることなどを目的として平成19年度から実施されています。今年度は、東日本大震災の影響等を考慮し、4月の全国一斉実施は見送られましたが、希望する学校に対して調査問題が配付されました。本市におきましては、全ての小・中学校が配付を希望し、小学6年生721名、中学3年生748名を対象に9月27日に調査を実施いたしました。

配付された調査問題の内容は、過去4年間と同様に、学習に関しては、国語と算数・数学の2教科について、主として「知識」に関する調査問題Aと、主として「活用」に関する調査問題Bの2種類、小学校と中学校で合計4種類実施されました。その他に、生活環境や学習習慣等に関する児童生徒質問紙調査と、主に校長が回答する教育環境に関する学校質問紙調査が実施されました。

さて、本市では、採点の公平性を確保するため、秋田県教育委員会が作成した採点基準に基づき、国語と算数・数学の専門教員等で組織した市学力対策委員会採点委員会にて採点いたしました。したがって、この報告は市学力対策委員会が採点した市内全小中学校の結果によるものです。

調査結果については、今年度全国一斉実施が見送られたために全国や県の平均正答率は算出されていませんが、本市の概要は、主として「知識」に関する問題については、小学校国語A・算数Aがそれぞれ85%、86%、中学校国語A・数学Aが85%、66%の平均正答率となっています。

また、知識・技能等を実生活の場面に活用する力を調査する「活用」に関するB問題については、小学校国語B・算数Bがそれぞれ55%、55%、中学校国語B・数学Bが73%、60%の平均正答率となっています。

来年度は、対象教科に理科が追加され、4月17日に調査が実施される予定ですので、各教科における活用する力の育成を中心に、指導方法の一層の改善を図り、本市の児童生徒が将来にわたってたくましく生きる力を培っていきたいと考えております。